

事例

「みんなと同じ、自分の絵本を見よう」 【4歳児】

幼児の実態 (ねらい設定の理由)

学級の幼児一人一人が絵本や紙芝居などを見たり聞いたりすることを喜んでいるが、興味のもち方や感じたり表現したりする姿には個人差がある。一人一人が絵本を楽しんで見るとき、場面から感じ取ったり、それを自分なりの方法で表したりする面白さを体験することで、幼児の表現する姿をより引き出ししていけるのではないかと考えた。そこで、教師が読み聞かせる中で、一人一人が絵本を手元におき、自分のペースでじっくりと場面を見たり感じ取ったりできるようにする機会を設けた。

ねらい：『のんびりえんそく』の絵本に興味をもち、自分で感じたり、思ったことを表現したりして楽しむ。

展開

予想される幼児の姿	指導のねらい	主な活動	具体的な援助
「今日は何の絵本を見るのかな？」	絵本の読み聞かせを楽しみにする。	教師の話聞く。	椅子を円形に配置し、互いが見合えるようにする。
「あれ？いつもと違うよ。」 「ぼくの本だ！うれしいな。」	絵本『のんびりえんそく』に興味をもち、 作：新沢としひこ 絵：おざきえみ 出版：ひかりのくに	絵本『のんびりえんそく』の表紙を見る。 皆で同じページを開きながら、絵本の読み聞かせを聞く。	読み聞かせの仕方を期待感もてるように伝え、一人一冊ずつ絵本を配る。 みんなと同じページを開けるように指示していく。
「先生と同じページ開いたよ。」	皆と同じ絵本を手にして、自分で見ながら楽しむ。	場面から思ったことや気付いたことを表情や簡単な言葉に表す。	絵本を見る幼児の姿に合わせ、じっくりと楽しむ時間を保障しながら、話を読み進めていく。
「『のんびりえんそく』...こないだ遠足に行ったね！」 「あ！ちょうちよがいたよ。どんなお話かなあ。」	場面から思ったことや気付いたことなどを言葉や動作で表して楽しむ。	友達の言葉を聞く。 絵本の中の歌やリズムカルな言葉の繰り返しを楽しむ。	一人一人が気付いたことや思ったことを表している姿を、「くんは、~と思ったのね。」「本当だ！~みたいだね。」などと具体的に言葉にして受け止めたり、周りの幼児に知らせたりする。
「あ、てんとう虫だ！」 「え？どこどこ？」 (友達の言葉を受けて、自分で探す、友達に聞く、伝え合う等)	友達の考えに気付いたり、耳を傾けたりする。 ページをめくって絵本を見る楽しさを味わい、満足感を感じる。	絵本の裏表紙を見る。 自分で絵本を見て楽しかったという気持ちをもつ。	絵本に出てくる歌と一緒に口ずさんだり、裏表紙の絵を見て、みんなで弁当を食べるまねをしたりして、楽しかったという気持ちが味わえるようにする。



4歳児で大切にしたいこと 保育者の援助

絵本や紙芝居、パネルシアターなど豊かな教材との出会い (創造性)

遊びや生活に密着した題材など効果的に教材を選び、幼児が楽しんで見ることによってイメージを豊かにし、色々な方法(聞く、話す、表情にして表す、歌うなど)で表現し、自己発揮できるようにしていく。

自分の好きな遊びを見つけて、じっくりと遊びに取り組む満足感 (安定した情緒)

幼児一人一人が安定して過ごす中で、主体的に環境にかかわりながら好きな遊びを見つけて没頭する経験ややりたいと思ったことを実現する楽しさが味わえるようにする。

教師や学級の友達とかかわり、一緒に過ごす楽しさ (人間関係)

一人一人の幼児と信頼関係を築き、教師や学級の友達と一緒に楽しい経験(絵本・集団遊び・みんなで一つのことに取り組むなど)を取り入れ、関わって遊ぶ楽しさを感じられるようにする。

楽しい、嬉しい、悲しい、悔しいなど多様な感情体験 (豊かな感性)

遊びや生活の中で幼児一人一人が感じたことを十分に受け止め、心が揺れる体験や機会を大切にすること。

みどころ

この園では、「感じ・考え・表現する幼児の育成」を目指す子ども像を独自の構造図によって示し、実践を行っています。みんなが同じ絵本を手にとり、同じページを一緒に見るという指導の工夫によって、絵本のいろいろな場面や状況に、より注意深く目が向くようになり、気付いたこと・感じたことを表す言葉が引き出されています。また、人の言葉に耳を傾けたり友達の考えに気付いたりすることは、新しい気付きの刺激となり、みんなで楽しい時間を共有しています。こうした経験は、「科学する心を育てる」ことにつながっていきます。